

(独立行政法人教職員支援機構委嘱事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業

実 施 報 告 書

プログラム名	「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業デザインと指導法の改善及びメンタリングによる教員の研修プログラムの開発
プログラムの特徴	比治山大学が平成 26 年より取り組んでいる大学教育再生加速プログラム（AP）のテーマⅠ「アクティブ・ラーニング」で得られた知見や指導改善事例を小学校の授業改善に導入することにより、小学校教員研修対象者の授業デザインや指導法の改善を図るとともに、それらの事例を参考に教員研修プログラムのテキストを作成した。また、大学・教育委員会等が連携したメンタリングを推進することにより、多様化している小学校児童の実態に対して多面的・多角的な視点からよりよい解決方法を主体的に選択し、実践・省察するとともに、自らの資質・能力の向上を実感し、より高い指導を目指して学び続ける教員を育成するプログラムを開発した。

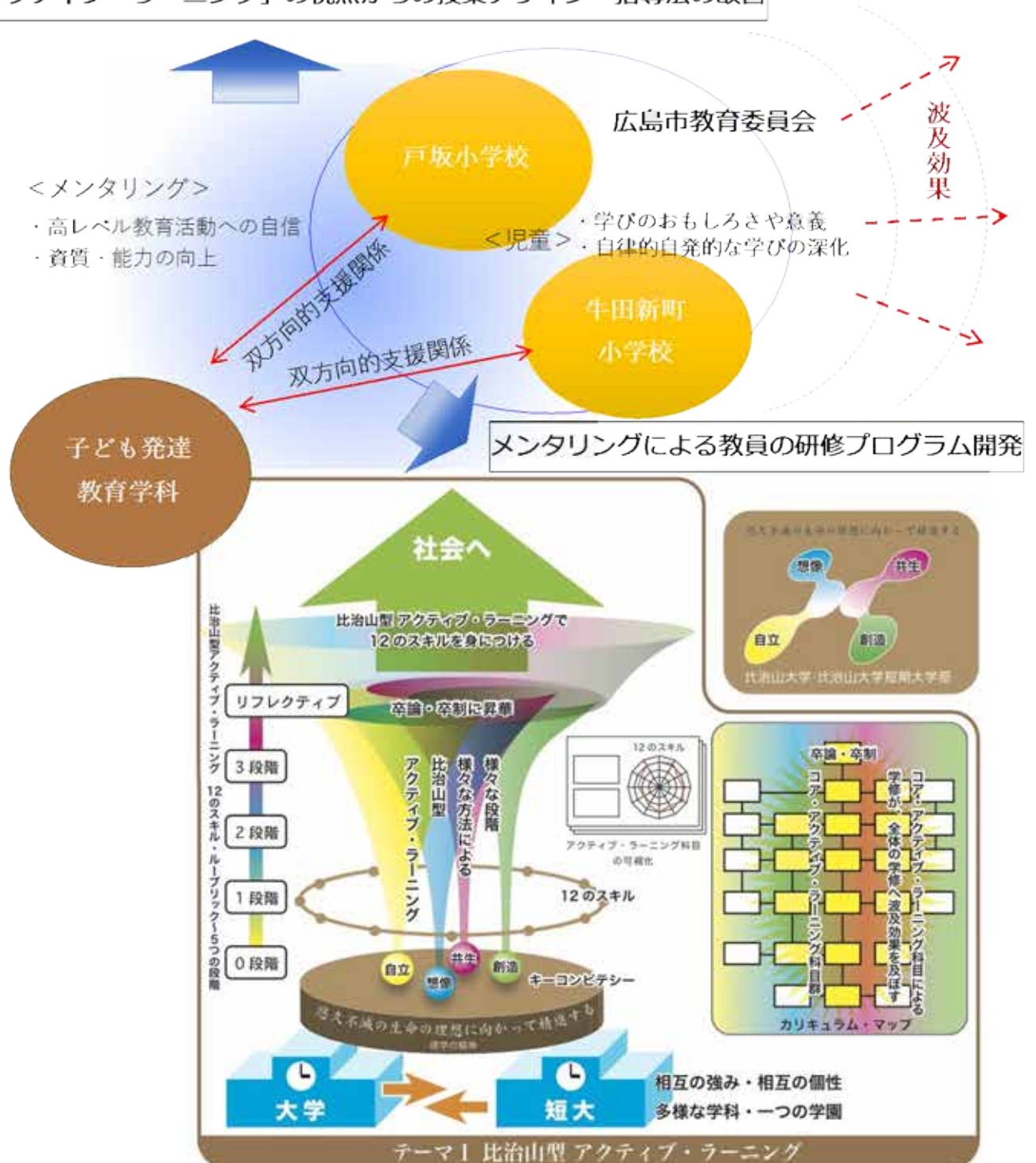
平成 30 年 3 月

機関名 比治山大学 連携先 広島市教育委員会

プログラムの全体概要

※ 各教育委員会の研修実施の参考例となると思われる開発成果を
中心に、プログラムの全体概要をポンチ絵等でまとめてください。

「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業デザイン・指導法の改善



平成 26 年度～平成 31 年度

「大学教育再生加速プログラム」AP 採択事業

I 開発の目的・方法・組織

1 開発目的と方法

比治山大学は、平成 26 年に大学教育再生加速プログラム（以下、A P）のテーマⅠ「アクティブ・ラーニング」とテーマⅡ「学修成果の可視化」の複合型で採択され、爾来、実践的研究を推進しているところである。そのうち、「アクティブ・ラーニング」については、12 の汎用的能力の育成をめざし、8 タイプの活動に分類したアクティブ・ラーニングを目的に応じて適用する「比治山型アクティブ・ラーニング」を実践している。また、本プログラムで主体となる本学「現代文化学部子ども発達教育学科」は、平成 26 年度より広島市教育委員会との連携のもと、本学近隣の「広島市立牛田新町小学校」及び「広島市立戸坂小学校」と研究協力（覚書）を締結し、学科からは両小学校の教育支援に求められる人的・物的資源の提供を、また、両小学校からは学科が実施する調査研究への協力や共同研究を中心に、年間を通して組織的かつ日常的な連携体制を構築し、各種の活動を展開してきている。

本事業の主目的の一つは、これまでに構築してきた連携体制のもと、比治山大学が A P で得た知見を参考に、新しい学習指導要領における中核の一つであるアクティブ・ラーニングの視点で小学校の授業を質的に高めていくことにより、児童一人一人の「豊かで深い学び」を実現することである。次期学習指導要領では、授業で児童が「どのように学ぶか」の鍵としてアクティブ・ラーニングの視点を提案しているが、比治山大学では既に、これまで 2 年間の A P の取り組みを通して「アクティブ・ラーニング実践事例集」を作成し学内で共有するとともに、コア科目を中心に協働的・対話的な学習形態の導入と実践を進めている。本事業ではこの「実践事例集」を教員研修プログラムの「テキスト」の基盤として、小学校教員に適した内容となるように作成した。

一方で、これからの教員には、「アクティブ・ラーニング」の一部分である学習活動のみに注視し、指導の形や方法をなぞるだけの学びをデザインするのではなく、教員自身がカリキュラム全体を通して児童に育まれる思考力・判断力・表現力の変容を見据え、自らの指導内容や方法を不断に改善する力が求められる。本事業では、特に多様化している小学校児童の実態の中で、学習に遅れがある児童に注目しつつ、授業デザインの構築や指導法の改善を図ることを中心的な課題ととらえた。そのためには、多角的な視点で児童一人一人の実態を把握し、学習の質を高めていくことが求められる。したがって本事業では、メンターシステムの導入により研修対象者（メンティー）が大学教員など複数のメンターの助言や支援を得ながら自律的な成長を遂げられるようにした。このメンタリングの実施にあたっては、メンターからメンティーへの「指導的」な一方向の関係ではなく、メンターとの双方向的な支援的关系を築くとともに、メンティーがよりよい解決方法を主体的に選択することができるようにした。

本事業の研修対象者は、近い将来、小学校の中核となる年代の教員を構想した。具体的には、一定の教員経験をもつ若い世代（教員経験が 3 年から 10 年程度）の教諭を対象者とした。これらの教員は、学級担任としてある程度の経験を積み、多様な児童の実態や幅広い課題を把握できる層であ

る。また、カリキュラム編成や授業デザインについても一定の知識・技能を有している。一方で、この層の教員は、児童自身が学習に興味・関心をもつ授業デザインや深い思考活動を促す学習場面の設定、これからの知識基盤社会や加速された IT 化社会における ICT の活用、児童一人一人への適切な評価活動や学習の遅れを示す児童への対応などについて、多くの課題を感じている。本事業では、これからミドルリーダーとなる教員が悩みとしやすいこれらの内容を中心に、1) 比治山大学が AP で蓄積してきた知見から対象教員が自らの知識・技能を点検・省察するとともに、2) メンタリングを通して対象教員が自らの資質・能力の向上を実感し、高レベルの教育活動への自信が持てることを到達目標とした。併せて、3) 対象教員の授業を受けた児童が学びのおもしろさや意義を実感し、自律的・自発的に学びを深めること、4) 本事業で開発した教員研修が 1 つのモデルとして対象小学校から地域、そして広島市全体へと波及することも本事業の目標とした。

2 開発組織

所属・職名	氏 名	担当・役割
比治山大学・教授（主任）	緒方 満	音楽科教育，全体統括
比治山大学・教授（学長）	石井 眞治	教育心理学，全体統括
比治山大学・教授	若元 澄男	図画工作科教育，メンター
比治山大学・教授	林 武広	環境・防災教育，メンター
比治山大学・教授	山田 恵次	算数科教育，メンター
比治山大学・教授	上之園 公子	生活科教育，テキスト作成
比治山大学・教授	鹿江 宏明	理科教育，テキスト作成
比治山大学・教授	望月 真	国語科教育，メンター
比治山大学・准教授	森川 敦子	道徳教育，メンター
広島市立戸坂小学校・校長	三吉 学	研修対象者調整，メンター
広島市立牛田新町小学校・校長	坂本 伸哉	研修対象者調整，メンター
広島市教育委員会学校教育部		
指導第一課・課長	松浦 宰雄	連携事業責任者
同・課長補佐	岡崎 貴弘	大学との連携責任者
同・主任指導主事	筒井 順也	小学校との連携責任者
同・指導主事	黒田 章弘	小学校との連携責任者
広島市教育委員会教育センター・主任指導主事	宅見 雄二	大学との連携責任者

II 開発の実際（授業研究）

1 算数科授業研究

目的：アクティブ・ラーニングを視点とした算数科教育の質的向上

日程：平成 29 年 7 月 12 日（水）第 5 学年

平成 29 年 10 月 17 日（火）第 1 学年

平成 29 年 11 月 8 日（水）第 3 学年

内容：大学教員が授業を参観し，授業終了後，授業に対するアドバイスを与える。

講師：比治山大学 教授 山田恵次

会場：牛田新町小学校

受講対象者：各学年の小学校教諭

2 道徳研修

目的：アクティブ・ラーニングを視点とした道徳教育の質的向上

日程：平成 29 年 7 月 26 日（水）

内容：大学教員が授業を参観し，授業終了後，授業に対するアドバイスを与える。

講師：比治山大学 准教授 森川敦子

会場：牛田新町小学校

受講対象者：各学年の小学校教諭

3 タブレット講習

目的：ICT 機器の活用力向上

日程：平成 29 年 7 月 26 日（水）

内容：大学教員が授業を参観し，授業終了後，授業に対するアドバイスを与える。

講師：比治山大学 教授 鹿江宏明

会場：牛田新町小学校

受講対象者：各学年の小学校教諭

4 音楽科授業研究（牛田新町小）

目的：アクティブ・ラーニングを視点とした音楽科教育の質的向上

日程：平成 29 年 6 月 16 日（金）第 5 学年

内容：大学教員が授業を参観し，授業終了後，授業，環境整備，活動等に対し，アドバイスを与える。

講師：比治山大学 教授 緒方 満

会場：牛田新町小学校

受講対象者：各学年の小学校教諭

5 音楽科授業研究（戸坂小）

目的：アクティブ・ラーニングを視点とした音楽科教育の質的向上

日程：平成 29 年 5 月 25 日（木） 比治山大学
平成 29 年 6 月 5 日（月） 戸坂小学校
平成 29 年 6 月 6 日（火） 戸坂小学校
平成 29 年 6 月 7 日（水） 戸坂小学校
平成 29 年 6 月 7 日（水） 比治山大学
平成 29 年 7 月 18 日（火） 戸坂小学校
平成 29 年 7 月 19 日（水） 戸坂小学校
平成 29 年 9 月 4 日（月） 戸坂小学校
平成 29 年 9 月 6 日（水） 戸坂小学校
平成 29 年 9 月 11 日（月） 戸坂小学校
平成 29 年 9 月 12 日（火） 戸坂小学校
平成 29 年 9 月 25 日（月） 戸坂小学校
平成 29 年 9 月 26 日（火） 戸坂小学校
平成 29 年 9 月 29 日（金） 戸坂小学校
平成 29 年 10 月 18 日（水） 比治山大学
平成 29 年 12 月 4 日（月） 戸坂小学校
平成 29 年 12 月 5 日（火） 戸坂小学校
平成 29 年 12 月 8 日（金） 戸坂小学校
平成 30 年 1 月 17 日（金） 比治山大学
平成 30 年 1 月 29 日（月） 戸坂小学校
平成 30 年 1 月 30 日（火） 戸坂小学校
平成 30 年 1 月 31 日（水） 戸坂小学校

内容：比治山大学音楽担当教授と戸坂小学校音楽専科教諭が共同で、アクティブ・ラーニングによる音楽的基礎能力の育成開発のための授業実践研究を実施。戸坂小教諭が実践し、大学が実践の成果を検証し、情報を互いに共有した。

講師：比治山大学 教授 緒方 満

受講対象者：戸坂小学校音楽専科教諭

6 算数科授業研究

目的：アクティブ・ラーニングを視点とした算数科教育の質的向上

日程：平成 29 年 10 月 17 日（火）

内容：比治山大学算数・数学担当教授と牛田新町小学校教諭が共同で、児童が主体的に問題に対峙し問題解決していく力を育む算数科授業改善のための実践研究を実施。その成

果を全体研修で検証し、情報を共有した。

講師：比治山大学 教授 山田恵次

会場：戸坂小学校

受講対象者：各学年の小学校教諭

7 防災教育（土石流）

目的：アクティブ・ラーニングを視点とした師範授業

日程：平成 29 年 10 月 17 日（火）

内容：小学 5 年生に土石流の防災教育を行いつつ、教員に内容と方法を伝えた。

講師：比治山大学 教授 林 武広

会場：戸坂小学校

受講対象者：各学年の小学校教諭

8 戸坂小授業研究会

目的：アクティブ・ラーニングを視点とした国語科・算数科・図画工作科の授業研究

日程：平成 29 年 11 月 29 日（木）

内容：国語科、算数科、図画工作科の公開授業を指導及び助言した。

講師：比治山大学 教授 望月 真（国語科）山田恵次（算数科）若元澄男（図画工作科）

会場：戸坂小学校

受講対象者：各学年の小学校教諭

III 開発の実際

（「アクティブ・ラーニング」を視点とした授業改善テキストの刊行）

刊行物『小学校版 「アクティブ・ラーニング」を視点とした授業実践』

（平成 30 年 3 月 20 日発行）

主 旨：本研修プログラムの成果を発信するため

利用対象：広島市立小学校に 10 部ずつ及び広島県公立小学校に 1 部ずつ配布。

内 容：「アクティブ・ラーニング」を視点とした授業実践 9 編を掲載

p.1 巻頭言 比治山大学・比治山大学短期大学部学長 石井眞治
広島市教育委員会学校教育部指導第一課課長 松浦宰雄

p.2 あいさつ 広島市立戸坂小学校校長 三吉 学
広島市立牛田新町小学校校長 坂本伸哉

p.3 目次

p.4 問われて考える子から自ら考える子に 山田恵次（比治山大学）黒川衣子 藤岡信恵
山際優未 田原咲子 砂谷成美（牛田新町小）

p.8 「ドレミ・エクササイズ」の実践 緒方満（比治山大学） 中峯悠太（戸坂小）

p.12 国語科におけるアクティブ・ラーニングの実践 近藤奈央（戸坂小）
望月 真（比治山大学）

p.14 森脇知子教諭の図画工作科授業を考える 若元澄男（比治山大学）森脇知子（戸坂小）

p.16 授業でのタブレット活用 鹿江宏明（比治山大学）

p.17 教科化の趣旨を踏まえた道徳の授業づくり 森川敦子（比治山大学）

p.18 新学習指導要領を見据えた外国語活動 大牛英典（比治山大学）

p.19 児童の「危機（犯罪被害）回避能力」の育成 上之園公子（比治山大学）

p.20 アクティブ・ラーニングを取り入れた防災学習の展開 林 武広（比治山大学）

IV 連携による研修についての考察

（連携を推進・維持するための要点、連携により得られる利点、今後の課題等）

【成果】

一定の教員経験を積み重ねた対象教員が本研修に参画することを通して、これまでに培ってきた自らの知識・技能をふり返り、これまでの成果や課題を明らかにするとともに、これからの自己研修において重点化・焦点化を図ることができた。

きめ細かく多角的な視点からのメンタリングを行うことにより、対象教員自身が自らの資質・能力の向上を実感し、本研修後も強靱に学び続け、自信を持って高レベルの教育活動に挑戦でき

る教員へと成長することができた。

対象教員の授業を受けた児童が、学びに対して「おもしろさ」や「学ぶ意義」を実感するとともに、主体的・対話的な学びを通して「豊かで深い学び」へと自律的・自発的に進めることができた。

本事業で作成した「授業改善テキスト：小学校版「アクティブ・ラーニング」を視点とした授業実践」を広く配付することにより、広島市がめざす児童の「豊かで深い学び」に向けて、各教員が指導の形や方法をなぞるだけの授業を実践するのではなく、児童の思考力・判断力・表現力のさらなる向上を見据えた学びをデザインするテキストとして活用することができる。

【課題】

本研修事業は、新学習指導要領に示されている、アクティブ・ラーニングの主旨に基づく「主体的・対話的で深い学び」のあり方の1つを、教員研修の立場から示すものである。地域を越えて、実践現場において参考可能と考えている。

比治山大学現代文化学部子ども発達教育学科とその近隣2校（戸坂小学校・牛田新町小学校）とは、緊密な連携によって、これまでの学生のインターンシップ事業を基盤とし、今後とも発展させることが重要である。比治山大学で取り組んでいるAP事業の成果を小学校教育に活かすことを目標に、各教科固有の学力の向上を見据えながら児童の能動的学習活動の研修を開発していくことが求められる。

V その他

[キーワード]

アクティブ・ラーニング、メンタリング、教科指導、授業改善

[人数規模]

C. 21～50名

(補足) 中心的なメンターとなる対象教員の実数は10名程度であった。

[研修日数(回数)]

C. 4～10日

(補足) 対象教員によって、研修日数は異なっていた。

【問い合わせ先】

比治山大学

現代文化学部子ども発達教育学科

〒732-8509 広島県広島市東区牛田新町4丁目1-1

TEL 082-229-8923